

大野命山・中新田命山



▲同笠新田村(大野)の地形復元 命山の東南側の窪地 ●は土取りのためか。
1. 寄木神社 2. 命山 3. 大福寺(慶長4年創建)

村と命山の関わり

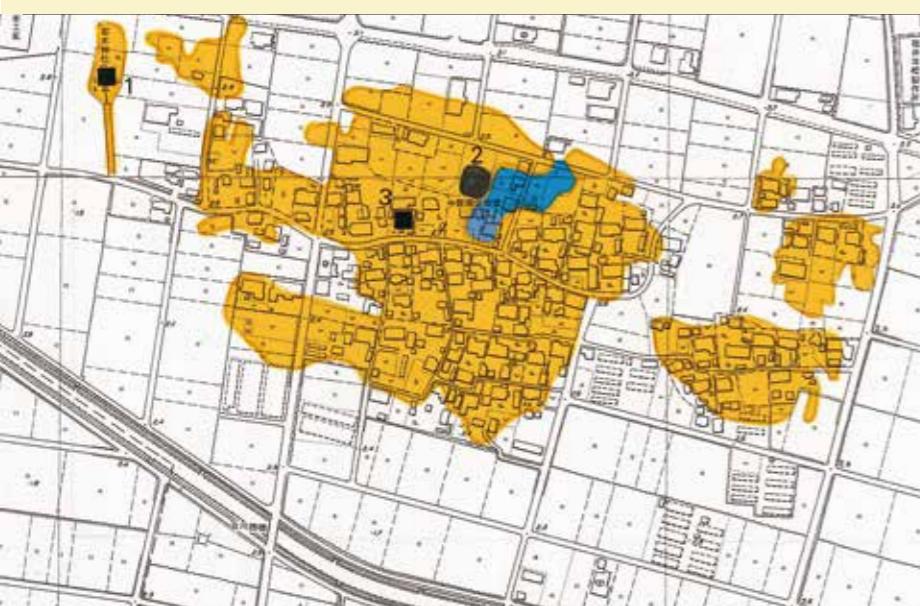
延宝の高潮災害の後に築かれた命山は村とどのように関わっていたのでしょうか。ここでは、村の鎮守と命山の位置に注目してみましょう。

大野・中新田は同笠に住む人が中心となって開いた村です。村を開くにあたり、鎮守として寄木大明神を同笠から分祀しました。このため三カ村ともに村の鎮守は寄木神社なのです。

大野は、江戸時代は同笠新田村と言い、中新田村は内海の縁に砂が堆積して砂洲となり、その中に新田を開いたことから中新田と呼ぶようになりました(『横須賀原始考』)。

両村ともに鎮守は、村からみて乾(北西)の方角で、しかも村外の微高地に位置しています。これは、地の神を祀るのと同じ場所で、村の鎮守が村全体の、地の神の役割を果たしていたとみることができます。

これに対し、避難所である命山は、集落の真中に来るよう場所が定めされました。このようなところに、計画的な村づくりの姿を伺うことができます。



▲中新田村の地形復元 命山の東側の窪み ●は土取りのためか。
1. 寄木神社 2. 命山 3. 新造寺(元和元年創建)

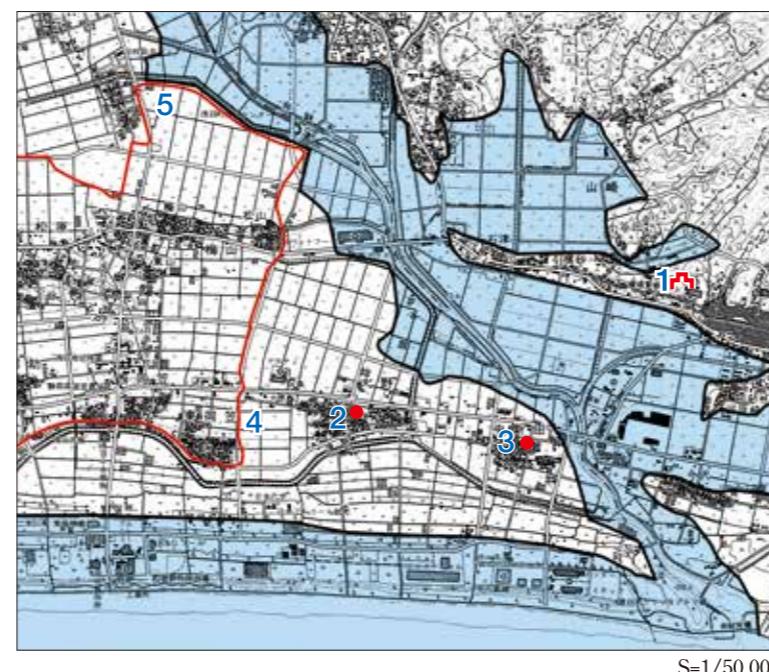
延宝8年閏8月6日の高潮災害と築山の築造

延宝8年(1680)閏8月6日に江戸時代最大と言われる台風が襲い、中国地方から東海、関東、東北の広い範囲で大きな被害が生じました。

浅羽・横須賀地域の詳細を記した『百姓伝記』によると「午前5時頃より風が吹き出し、午前10時頃には高潮が押し寄せ、多くの人馬が死亡、海はしけとなり、降る雨は海水のように塩辛く、打寄せる波は潮浸しとなり、なかでも東同笠・大野新田・中新田・今沢新田には潮が強く当り、この村では老若男女300人が死亡した」とあります。

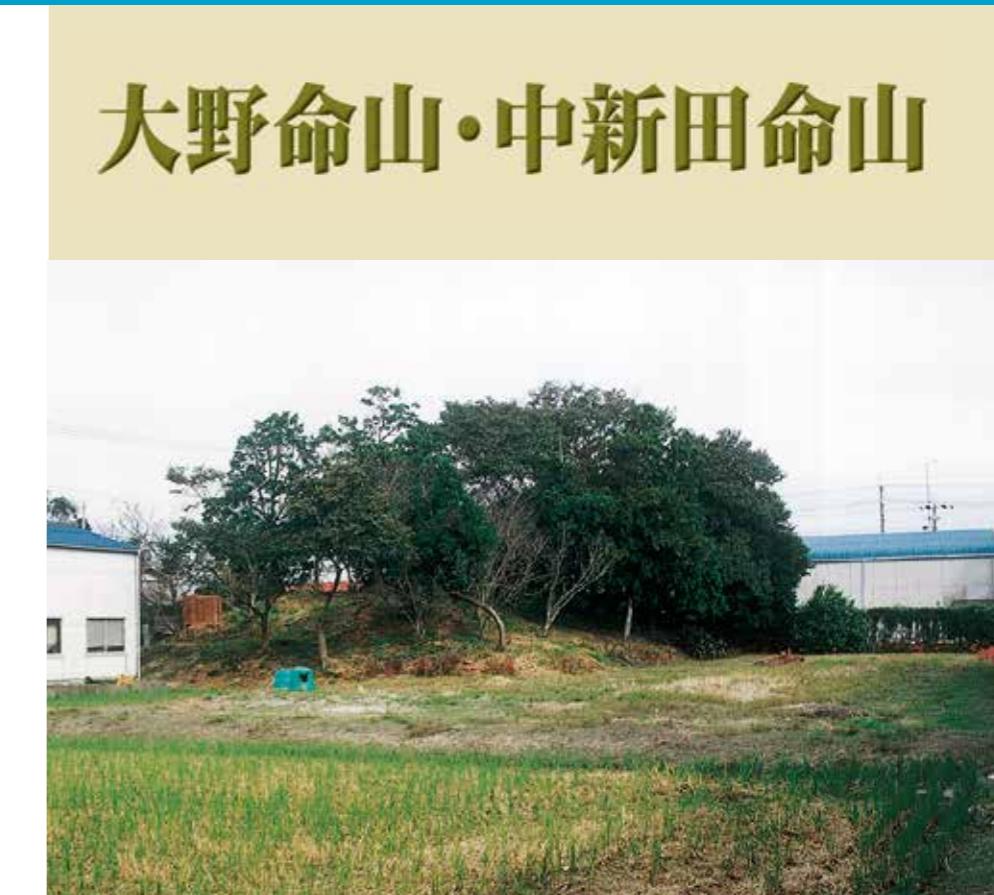
当時の浅羽全域は横須賀藩領で、藩主は本多越前守利長でした。
さっそく家中総動員で崩壊した堤・塙の修復にあたります。『横須賀根元歴代明鑑』には「普請にあたっては領主から扶持米(賃金)もせず、農民たちは困窮を極め、追い討ちをかけるようにさらに8600俵の年貢増加を行った。払えない百姓はつかまえて女房は水田の中に矢来を組んで水中に漬け、男は寒中に水を掛けて凍えさせ、殺した村もあった」と記しています。

このような状況のなか、生きのびた村人たちは藩の技術指導を受けて避難所の築山(人工の小山)を築きました。そのうち高潮が発生した時は築山に避難し、命を助けてくれる山ということで、「命塚」「助け山」「命山」と呼ばれるようになりました。



1680年ころの地形復元と命山の位置

- 1 横須賀城
- 2 大野命山
- 3 中新田命山
- 4 浅羽大圍堤(浅羽33ヶ村を囲った堤、全長約13km)
- 5 中畦堤(中世後期頃の堤 16世紀か?)



▲大野命山全景(南から)



▲中新田命山全景(南から)

種 員 管 理 者	別 数	史 跡 件	指 定 年 月 日	築 造 年 代	發 行
大野寄木神社総代 中新田寄木神社総代	1	大野寄木神社総代 中新田寄木神社総代	2007年3月20日	1680年(延宝8年)頃	袋井市教育委員会

命山の復元と比較

伝承の域を出なかった命山の構造と、両者の関係を探るための学術調査を2002年10月～12月にかけて実施しました。

大野命山 規模・形態／南北32m、東西24m、高さ3.5mの長方形
土量／約1500m³
頂上平場の面積／136m²

中新田命山 規模・形態／南北30.5m、東西27m、高さ5mの長方形
土量／約2200m³
頂上平場の面積／68m²

特徴 隣同士の村で、ほぼ同時に築山を築き始めたのに、両者の形態は異なる。大野は頂上の面積を広くとる形態を採用し、中新田は高さを確保している。この違いはどこに起因するのだろうか。



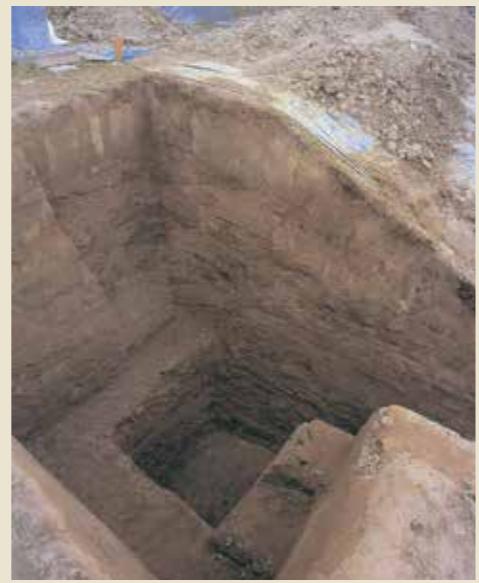
▲中新田命山 南北断面



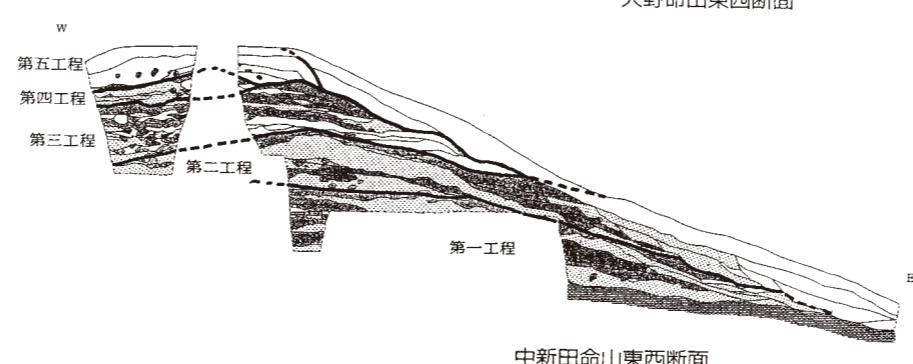
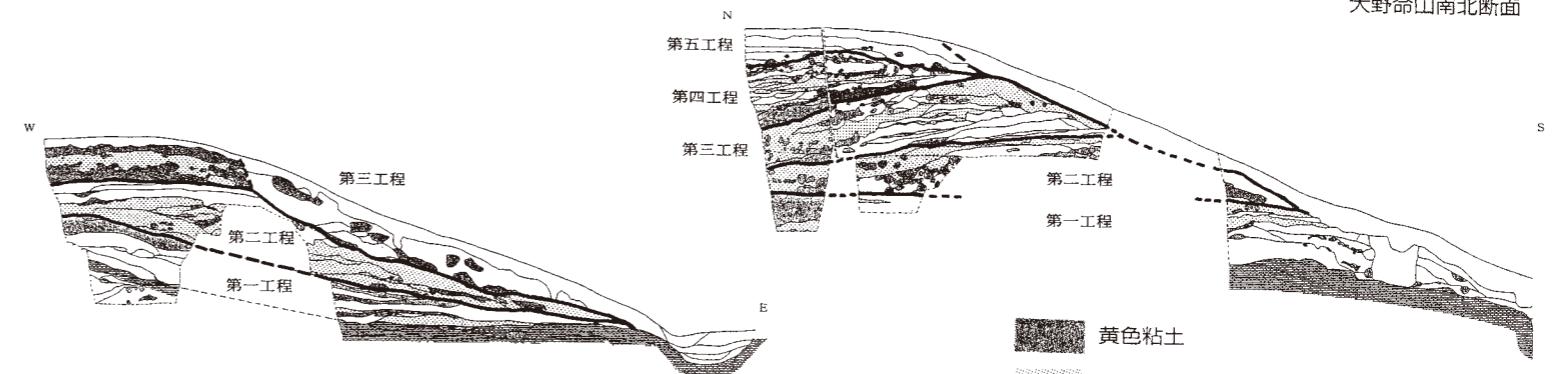
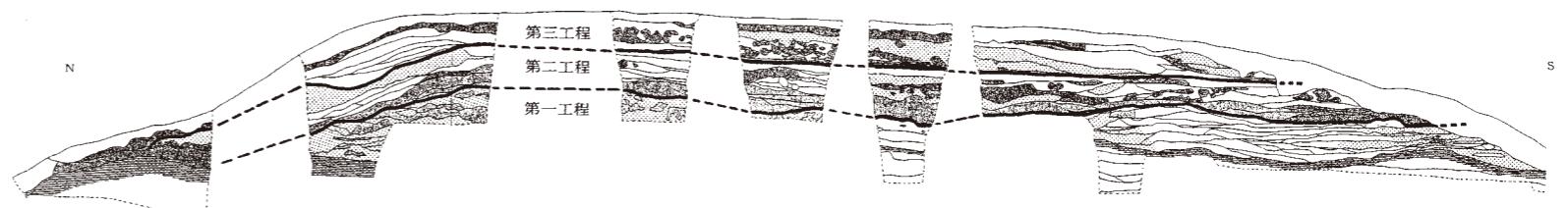
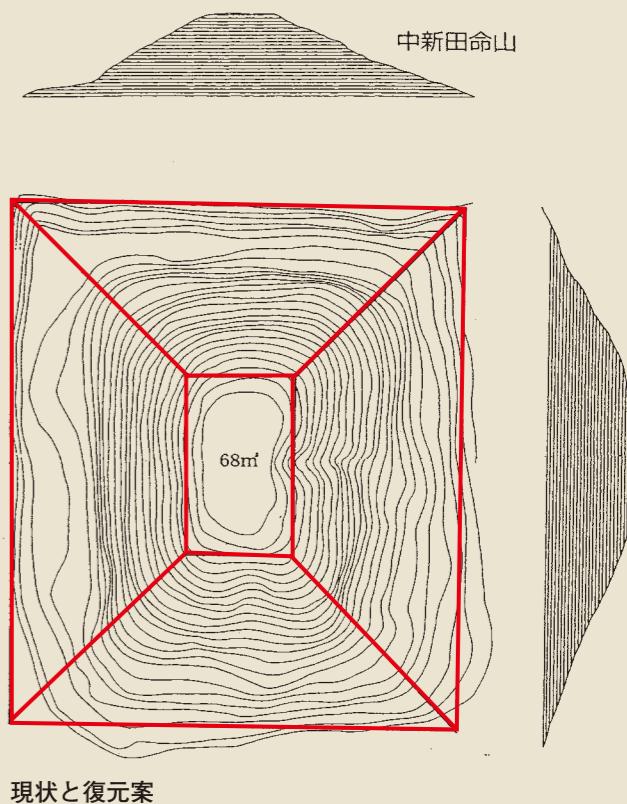
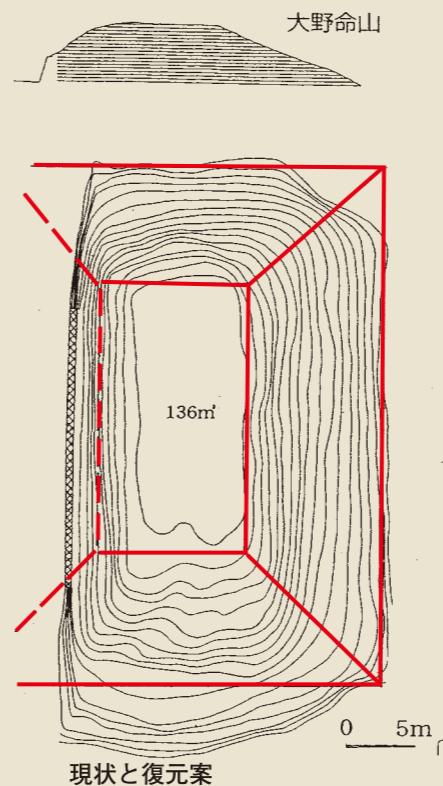
▲大野命山 南北断面



▲大野命山 東西断面



▲中新田命山 東西断面・命山の中心部の断面



盛土・作業工程の比較

大野では地山の直上からほぼ1mづつ、3回の工程に分けて斜面を除きその土を水平方向に積み上げる。

中新田では地山の直上1mほどは水平方向に積んで土台を造るが、その上には中心部に向けて傾斜を持たせるように積み上げ断面が三角形状になっている。これを繰り返し、5回の工程で高さを確保している。

両者の違いは確保できた土の違いに起因しているようだ。大野は粘土が確保しやすかったのに対し中新田は砂地で、粘土の確保が容易ではなかったのだろう。

